



THE対談

坂本カオリ×向井友絵×酒向綾子×佐々木梢
～いつも素敵な笑顔です。スタんツの「お母さん先生」と対談～

こんにちは。今回は、スタんツの「お母さん先生」達に、色々とお話を伺ってきました。
スタんツには、たくさんのお母さん先生がいます。「育児から卒業しました！」というベテラン先生もいれば、「今日は朝から保育園に行きたくないとぐずって…」と、フレッシュな先生もいます。どの先生も、日中はスタんツの子ども達と思いつき野山で遊び、スタんツが終わると、お母さんの顔に戻ります。
いつも精力的に働いている先生達ですが、「日々の暮らしの中で、子育てを通して何か感じられる事がありますか」とたずねてみたところ、とても素敵なお話を聞くことができました。今回は、3人の先生達のお話を紹介します。



向井友絵先生

「最近、娘(2才)が流行っているのが絵本なんですけど…『ふたごのたまご』といいまして。ふたごちゃんの名前はぴー君とぺー君というんですけど、娘が、こっちがぴい、こっちがぺえって、指さしができるようになって(笑)。その仕草が凄く可愛いんですよ」

そう言いながら、スマートフォンに録画した娘さんの動画を見せてくれました。その時の先生の顔がとても幸せそうで、思わずその表情をカメラにおさめました。スタんツでも同じ笑顔を、クラスの子も達に向けてくれる、とても先生です。

ちなみに、『ふたごのたまご』の作者は、『僕は王様』で有名な寺村輝夫先生。2～3才児向けの、とても面白い絵本ですよ。

えっ？なんでお弁当の写真？と、思われたでしょう。このお弁当の真相は…。
「一番下の娘(中学2年)が、毎朝、兄弟分のお弁当を作っているんですよ。夜ご飯の残りを足して、朝は携帯(スマートフォン)置いて、たぶん何か料理サイトとか見てんのかな。それ見ながら作ってますね」と、凄くあっさりとした口調で教えてくれた、綾子先生。「うちの娘がお弁当を！」って、もっと自慢しても良いのに、その様子は全くなく「勝手に(子ども達は)育ってるんですわ」と。そして写真は、『末娘の、手作りお弁当写真』あぁ、なんて美味しそう！

失敗しても文句は言わない。綾子先生のおおらかで、子ども達を信じる心。だから、こんなに素敵なお弁当が作れると思うのです。



酒向綾子先生



佐々木梢先生

「子どもに根拠の無い自信をつけさせたいんですよ」
いつもよりちょっと緊張した表情の、梢先生。根拠の無い自信？どうということ？と、たずねると、こんな話をしてくれました。

「例えば、こどもがなんで？と聞いてくることがありますよね。その時、できるだけ簡単に答えを言わないようにしているんです。間違っても良いから、自分で考えて欲しい。だから、なんでだと思う？と、問うようにしているんです。そして、子どもが一生懸命に考えて見つけた答えには、それがどれだけ間違っている、そうだね、良く考えたねと、共感してあげます。それを続けることで、人前で自分の意見を言う時に、間違えることがあっても恐れなくて伝えることができる。自分の子にも、スタんツの子にも、同じようにしているんですよ」

根拠の無い自信は、自己肯定感が高い。と、言うことですね。とても勉強になりました。もっとお話を聞きたいですね。

今回は、以上です。どの先生も、日々の暮らしの中で自然に行っていること。とても素敵ですね。他のお母さん先生のお話も、またお伝えしたいと思います。お楽しみに。

佐々木が

子どもの「今」を見つめる

いつも頑張っているママさんたちへ



色とりどりの落ち葉が絨毯のようで、道を歩くのがとても楽しい季節となりました。

今年度、スタンツ1歳児・2歳児クラスの担任を受け持たせていただいております、佐々木梢です。（こっこ先生と呼ばれています。）スタンツに入社して18年目になり、この18年の間に、結婚・妊娠・出産・子育てと、いろいろ経験させていただきました。経験して言えることは、何と言っても、『パパやママ、全ての方の偉大さ』です。それを感じてなりません。

今回『子どもの“今”を見つめる』の原稿を書こうとしたとき、ちょっぴり視点を変え『ママの“今”を見つめる』にしてしまおう！と、勝手に筆を走らせてしまいました（笑）

過酷？な『ママ業』、いつもお疲れ様です。

24時間365日、休みがない家事や育児。『ママって本当に大変！』とは言いますが『じゃあ、何が大変なの？』と聞かれると…。

『言葉では言い表すことの出来ない程、大変なんですよ！』

◎家事…多岐にわたりやるべき事があります。
料理、洗濯、掃除、買い物など。

これだけみると少ないようにも見えますが、育児をしながらでは、自分のペースでは絶対に進みません（笑）

現在は、いろいろなサービスや時短に繋がる工夫、ロボットなどちょっぴり楽をさせていただけますが、専業主婦で平日の家事に費やす時間は、約300分というデータがあるそうですよ。（国立社会保障・人口問題研究所による全国家庭動向調査 参照）季節によってもそうですが、子どもの人数、家族構成、生活スタイルなどによって、もっと家事が増える場合がありますので、一概には言えませんね。

◎育児・子育て…エンドレス
育児とは、乳幼児（0歳～6歳）のお世話、養育をすること。

子育てとは、特に年齢はなく、学童期までの時期も含んでいる。面白い話を聞いた事があるのですが、『世界で最もきついお仕事』の募集があったそうです。

その募集要項というのが、

- ・1週間に119時間勤務（月曜～日曜） 17時間/1日
- ・研修などは、なし
- ・タイムマネジメント（自身の仕事のやり方・進め方を管理する）必須
- ・深夜の緊急の仕事は全て受け入れる事
- ・365日我慢をしプレッシャーに打ち勝てる強さを持っている事

だったそうです。どんな高額なお給料であっても、ちょっとご遠慮したいお仕事の募集要項ではないですか？

そして気付いちゃいましたか？そうなんです！そのお仕事とは

『ママ業』

『ママ』というお仕事は、楽しい事・幸せな事がいっぱいありますが、世界で一番厳しく、そしてなくてはならない大切なお仕事。本当に皆さん凄いです。（拍手喝采）

なので、もっともっと自分を褒めてください。そして、もっともっと自分の頑張りを誇らしげに自慢してください。いつでも聞かせてください。聞きたいです！

長々と筆が走ってしまいましたが、地球上すべての『ママ』に感謝と敬意を表さずにいられません。というお話でした。

また、たいようを書く機会がきましたら、次は『パパ』の事を書きたいと思います。お楽しみ？にしていってください。

宇野

が遊びで育む ココロとカラダ



運動会を終えて

10月26日に、令和3年度の運動会を無事終えることができました。今年は、去年でできなかった組体操にチャレンジしました！1週間という練習期間で、自分の立つ場所、技、流れを覚えます。そして、組体操の最後の見せ場では、クラス全員でピラミッドを作りました。

組体操のピラミッドには、「土台」という役割が欠かせません。土台の子に対しては、上に乗る子は「ごめんね、だけどよろしくね。」という気持ちがあります。しかし、「土台がやりたい！」「土台ってかっこいいんだよ！」「土台がいないとピラミッドはできないから、土台ってすごいんだよ！」「土台やったー！」と、前向きにやる気、やりがいを見出していました。組体操を通じて、自分の役割を理解したり、やりがいを見出すことのできるスタンツっ子は、すごいなと感心しました。

上に乗る子は、土台の子に対して思いやりを持って声をかけたり、場所に迷っている子がいれば助けてあげたり、とても優しくアドバイスしてくれました。失敗して落ち込んでいる子がいれば「大丈夫！泣かなくて大丈夫だよ！またやろう！」と、声をかけて寄り添う姿もたくさんみることができました。

みんなでひとつのことに向かって協力し、助け合い、励まし合い、支え合い、これから生きていくための土台も、組体操を通じてたくさん学ぶことができたと思います。たくさんの困難があり、時には涙を流すこともありました。その分、やり終えた時の達成感、充実感、一体感には、とても感動しました。それが、このコロナ禍の中、保護者の方々にも伝えられたことがとても嬉しかったです。

これからも色々な経験、挑戦をして、心の土台、身体の土台、生きることの土台を、スタンツで身につけていきたいと思います。

和田が
思う！

「遊び」と「学び」は一对！



MEIKYOの講師を担当しております、和田遥菜です。2学期になり、1年生の子どもたちも学校に慣れてきたようで、学校での出来事やお友だち、先生についてなど、様々な話を聞かせてくれます。また、昨年はほとんどの学校で中止となった運動会や、修学旅行等の学校行事も、今年は開催できる場所が増え、子どもたちは勉強や部活動、行事等で忙しくしています。

今回は、子どもたちとの雑談で、私が気づいたことを紹介したいと思います。子どもたちとの何気ない雑談は、だいたい一対一か、同学年の仲がよい子たちが話しているところに私が入るというパターンが多いのですが、普通の雑談なら、話をする人は変わらないと思います。しかし、MEIKYOの教室で雑談をしていると、突然一人、また一人と、雑談の輪に入るメンバーが増え、気づけば大人数での会話になっていることがよくあります。そして、輪に入ってきてくれる子は、同じ学年でない場合もあります。学校の行事について話しているときも、他の学校の子が「自分の学校はこうだった」「自分の学校と一緒に！」と反応してくれて、一対一の会話が、いつのまにか小さなコミュニティになっていました。

なぜ、このような関係が生まれるのでしょうか。

MEIKYOでは、同じ教室内で、異なる学年の子どもたちが一緒に勉強をしています。個別授業で一緒になった、休憩時間に一緒に遊んだ、話すきっかけは様々です。日々、こういった雑談をしているからこそ、塾以外の環境で遊ぶ約束をし、友だちの輪が広がったり、休憩時間の会話も自発的にコミュニケーションをとったりすることが当たり前の光景になりました。学校では、学年によってフロアが分かれ、他学年と関わるのは、部活動や委員会活動といった機会になると思います。MEIKYOでは、他学年だからできる話や、新たにできた話し相手を作ること、より精神的に安心した状態で勉強に取り組める環境になっています。

もうすぐ中学生は、期末テストです。勉強も仲間と頑張つて、楽しい冬休みを迎えられるようにしましょう！